

會計年度	會社名	平均資本額	收入	支出	差引益金	補助金	平均資本ニ對スル割合	
							益金	補助金
同十二年	同十二年	100,000	11,800	10,000	1,800	100	100	100
同十一年	同十一年	100,000	9,500	10,000	500	100	100	100
同十年	同十年	100,000	9,100	9,500	400	100	100	100
同五年	同五年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同六年	同六年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
昭和七年	昭和七年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同八年	同八年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同九年	同九年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同十年	同十年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同十一年	同十一年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
合 計								

會計年度	會社名	平均資本額	收入	支出	差引益金	補助金	平均資本ニ對スル割合	
							益金	補助金
同十二年	同十二年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同十一年	同十一年	100,000	9,500	10,000	500	100	100	100
同十年	同十年	100,000	9,100	9,500	400	100	100	100
同五年	同五年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同六年	同六年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
昭和七年	昭和七年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同八年	同八年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同九年	同九年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同十年	同十年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100
同十一年	同十一年	100,000	10,000	10,000	0	100	100	100

備考 一、新興鐵道營業收支及補助金ハ補助内線(松興線)ノミヲ掲上ス
 二、補助ハ京東鐵道ニ對シテハ大正十年四月制定ノ補助法ヲ適用シ朝鮮鐵道及金剛山電氣鐵道ハ昭和十年上半
 期ヨリ京南鐵道ハ昭和十年下半年期ヨリ昭和九年三月制定ノ改正法ヲ適用ス

蒸氣	瓦斯倫	瓦斯倫	電氣	瓦斯倫	蒸氣				瓦斯倫及蓄電池	蒸氣				
朝鮮セメント株式會社	日本マグネサイト株式會社	日本鑛業株式會社	朝鮮窒素火藥株式會社	朝鮮無煙炭株式會社				東洋拓殖株式會社	日本製鐵株式會社					
京城	京城	京城	永興	平南				京城	兼二浦					
黃海	咸北	平北	咸北	咸南				咸北	黃海					
龍潭炭坑—自作驛	上南溪—探礦場	南溪驛—上南溪	北新峴驛—北鎮	灰炭洞—梧鳳洞	新大龍驛—工場	南京里—表堡里	台莊—貨泉里	廣清里—台莊	立石里—大成里	高飛里—大成里	門岩—嶺頂	蓮鄉洞—溫川洞	鳳坡洞—次鄉洞	製鐵所構內
〇・七	〇・五	三・八	四・七	四・六	一・二	一・五	一・二	五・六	五・四	二・四	二・一	〇・五	元九	〇・三
製品及原料輸送	同	マグネサイト鑛運搬	金鑛運搬	石炭及事業用品運搬	製品及材料運搬	同	同	同	同	無煙炭及事業用品運搬	同	同	伐木及事業用品運搬	鑛石製品運搬
昭和 一、九、一〇	昭和 二、一、八、四	昭和 一、一、九、一〇	昭和 一〇、一、六、三	昭和 一〇、一、一、一	昭和 一〇、一、一、三	昭和 一、一、二、三	昭和 三、一、三、二	昭和 三、一、三、二	大正 九、四、一五	昭和 九、一、一五	昭和 一〇、一、九、一	昭和 八、一、三、七	昭和 八、一、三、七	大正 三、六、一
昭和 一、一、六、一〇	昭和 二、一、九、六、八	昭和 一、一、一、二、一	昭和 一、一、九、一、四	昭和 一〇、一、七、三	昭和 一、一、八、一、九	昭和 一、三、九、一〇	昭和 一、二、一、一〇	昭和 一、三、一、一、五	大正 一〇、一〇、一、三	昭和 一〇、一〇、一、六	昭和 一〇、一〇、一、一	昭和 八、一、六、二、九	昭和 八、一、六、二、九	大正 六、一、一、一〇

						〇・六、二		一・四、二		軌間									
瓦斯倫	氣	蒸			蒸氣	瓦斯倫	蒸氣	動力	經營者名	主務所 所在地	位 道名	區 間	程	使用目的	免許又ハ許可 年月日	運 輪 開 始 日			
		朝鮮無煙炭株式會社			三義鑛業株式會社				朝鮮淺野セメント株式會社	株式會社住友本社	朝鮮石油株式會社	經營者名							
江西		京城			兼二浦					文坪	元山	事務所 所在地							
		平南			黃海					咸南	咸南	道名							
	龍潭炭坑—自作驛	騰峰炭坑—上五里	古平面—金祭面	同 延長線	金泉洞—順和江岸	龍仁洞—金泉洞	載寧郡下聖線	丸山支線	竹堡里支線	青石里線	李己井里線	同馬洞驛—龍潭里	文坪驛—秀達里	葛麻驛—浦下洞	區 間	程	使用目的	免許又ハ許可 年月日	運 輪 開 始 日
	六・一	五・二	九・五	〇・三	一・九	六・三	一・〇	〇・五	〇・九	三・二	七・四	一・三	一・八	一・三	一・二	製品材料運搬	昭和 一〇、一、一、六	昭和 二、一、七、一	
	無煙炭及材料運搬	無煙炭及材料運搬	同	同	同	石炭及坑木運搬	同	同	同	同	鐵鑛石運搬	同製品及原料運搬	鑛石及材料輸送	製品材料運搬	製品材料運搬	製品材料運搬	昭和 一〇、一、一、六	昭和 二、一、七、一	
	昭和 八、一、六、一	昭和 七、一、三、三	大正 一、五、三、四	大正 九、一、三、四	大正 七、八、三〇	大正 四、六、三	大正 一、三、七、七	大正 三、九、一〇	大正 六、三、三	大正 三、九、一〇	大正 三、六、一	昭和 一、三、一、二	昭和 一、一、一、〇	昭和 一〇、一、一、六	昭和 一、一、三、二	昭和 二、一、七、一	昭和 一〇、一、一、六	昭和 二、一、七、一	
	昭和 八、一、二、四	昭和 八、一、四、二	昭和 二、九、七、七	大正 九、六、一、二	大正 八、八、三、七	大正 六、一、一、〇	大正 一、四、九、一	大正 九、三、三、四	大正 六、三、一、〇	大正 六、一、一、〇	大正 六、一、一、〇	昭和 三、一、四、九	昭和 三、一、一、二	昭和 一、一、三、一	昭和 二、一、七、一	昭和 一〇、一、一、六	昭和 二、一、七、一		

軌間 動力	經營者名	主事務所 所在地	位置		軌程	使用目的	免許又は許可 年月日	年運輸 開始日
			道名	區				
〇・六三 電力	日本窒素肥料株式會社	京城	京城	同	三・三	工場材料製品輸送	昭和 一、一、三〇	昭和 一、一、三〇
〇・六三 瓦斯倫	株式會社 鹿島組	京城	咸北	新站驛—茂山郡	一〇・一	工事材料運搬	昭和 一、三、三〇	昭和 一、六、二〇
〇・六三 蒸氣	朝鮮セメント株式會社	京城	黄海	新德驛—大廳里	〇・五	石炭石輸送	昭和 一、一、一七	昭和 三、六、一〇
〇・六〇 瓦斯倫	朝鮮無煙炭株式會社	京城	平南	大同江面—南串面	七・二	無煙炭坑木運搬	昭和 五、七、一〇	昭和 五、一、二六
〇・六〇 瓦斯倫	朝鮮無煙炭株式會社	京城	平南	冷井洞—大文山	一・八	同	昭和 一、三、一〇	昭和 一、三、一、六
〇・六〇 瓦斯倫	鳳泉無煙炭株式會社	鳳泉里	平南	鳳泉炭坑—鳳泉驛	三・五	同	昭和 八、五、三〇	昭和 八、九、一
〇・六〇 蒸氣	朝鮮無煙炭株式會社	江西	平南	龍井里—兎山里	五・五	石炭坑木運搬	大正 六、一〇、一七	大正 六、一、三〇
〇・六〇 蒸氣	朝鮮無煙炭株式會社	江西	平南	兎山里—青山浦	三・二	同	大正 七、九、七	大正 八、六、二二
〇・六〇 蒸氣	朝鮮無煙炭株式會社	江西	平南	青山浦—鼓陽驛	二・四	同	大正 八、五、二六	大正 一〇、六、一〇
〇・六〇 瓦斯倫	朝鮮無煙炭株式會社	江西	平南	龍井里—班二里	四・八	同	大正 七、一〇、一六	大正 一〇、三、二一
〇・六〇 瓦斯倫	山下黑鉛工業株式會社	弓心洞	咸北	全生驛—弓心洞	四・九	石炭及事業用品運搬	昭和 一、三、九、一	昭和 一、三、四、二五
計					三二・六			

未開業線

軌間 動力	經營者名	主事務所 所在地	位置		軌程	使用目的	免許又は許可 年月日	年運輸 開始日
			道名	區				
〇・六三 瓦斯倫	日本マグネサイト化學工業株式會社	城津	咸北	第三採鑛場支線	〇・八	マグネサイト搬	昭和 一、三、一〇、元	
〇・六三 蒸氣	大日紡績株式會社	清津	咸北	清津驛—水南洞	五・二	原料機械及製品輸送	昭和 一、三、五、二六	
〇・六三 蒸氣	海州鐵工株式會社	海州	黄海	朝鮮セメント工場	〇・一	製品及材料輸送	昭和 一、三、九、一	
〇・六三 蒸氣	三義鑛業株式會社	清津	咸北	大日線本工場	一、三	原料及製品輸送	昭和 一、三、九、元	
計					六・三			

二、專用鐵道監督法規

專用鐵道ノ監督法規トシテハ從來專用ノ輕便鐵道及軌道ニ關スル件(府令)ニ據リシガ大正九年十一月朝鮮専用鐵道規程(府令)制定セラレタリ次デ昭和十三年一月朝鮮鑛業警察規則(府令)制定ノ結果該規程ニ依ル

專用鐵道ニシテ右規則ニ依リ律セラルルモノ生ジタルニ因リ同規程ノ一部改正セラレタリ右改正規程ノ適用ヲ受クル專用鐵道ハ左記各號ノモノヲ除キタルモノナリ

- (一) 人力又ハ牛馬車ヲ使用スルモノ
- (二) 工場事業場其ノ他之ニ類スル地域内ニ限リ敷設スルモノニシテ公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通或ハ直接連絡セザルモノ
- (三) 朝鮮鑛業令ニ依ル鑛業ノ用ニ供スル爲鑛區内又ハ之ニ隣接スル地域内ニ敷設シ公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通或ハ直接連絡セザルモノ(鑛區外ノ延長十キロメートルヲ超ユルモノヲ除ク)

第三編 軌道及陸運

第一章 軌道

一 沿革

電氣軌道

京城 朝鮮ニ於ケル電氣軌道ハ明治三十二年四月韓美電氣會社ニ依リ京城(西大門内)ヨリ清凉里ニ至ル線路ヲ開通セルヲ以テ嚆矢トス 明治四十二年ニ至リ邦人ノ組織ニ係ル京城電氣株式會社(舊稱日韓瓦斯電氣會社)ニ於テ買收シ爾來同社ニ於テ市内及麻浦往十里等ニ至ル新線路ノ敷設竝ニ改良ヲ行ヒ現在市内線ノ大部ハ複線ニシテ昭和十三年十二月一日現在營業線三五軒九分ナリ

釜山 次デ大正四年釜山ニ於ケル朝鮮電氣株式會社ハ釜山郵便局前ヨリ釜山鎮ニ至ル線路ヲ敷設シ明治四十三年釜山軌道株式會社ヨリ買收セル釜山鎮東萊間私設鐵道ノ適用ヲ受クニ電氣動力ヲ使用シ其後市内ニ軌道ヲ増設シ現在軌道一二軒一分ニシテ釜山鎮東萊間九軒五分ヲ併セ合計二二軒六分ナリ

平壤 京城及釜山以外ノ都市ニ於テハ久シク電氣軌道ノ敷設セラルルモノナカリシが大正十二年ニ至リ平壤府經營ノ下ニ同府内ニ電氣軌道計畫セラレ同年五月第一期線タル平壤驛前新昌里間ヲ開通シ同年十一月郵便局前ヨリ分岐シ大同江橋梁ヲ經テ對岸ニ至ル間ヲ開通シ其ノ後新線ヲ増設シ現在一二軒八分ノ營業線ヲ有ス

輕油軌道

輕油ヲ動力トスル咸平軌道株式會社ハ大正十五年五月湖南線鶴橋驛ヨリ咸平邑ニ至ル六杆一分ニ對スル敷設ノ許可ヲ受ケ昭和二年一月開業シ、次デ昭和二年三月京城郊外軌道株式會社ハ往十里トッソ靈島間四杆三分ノ許可ヲ受ケ昭和五年十一月一日之ヲ開業シ、六年九月往十里ヨリ東大門裏ニ至ル間ノ追加許可ヲ得タルガ同七年四月新ニ設立セル京城軌道株式會社ニ於テ前記四杆三分ノ軌道及附屬物件ヲ讓受ケ且ツ往十里東大門裏間二杆九分及上後原華陽間二杆更ニ華陽廣壯間四杆ヲ開業シ現在開業線十四杆七分ナリ

手押軌道

一般運輸ヲ營ム手押軌道ハ昭和六年度初ニ於テハ倭館靈武、生氣嶺及濟州島ノ各軌道計六七杆四分アリタルガ、其ノ內生氣嶺及濟州島ハ六年九月靈武ハ八年四月倭館軌道ハ昭和十二年七月執レモ營業ヲ廢止シ朝鮮ニ於ケル手押軌道ハ皆無トナレリ

法規

軌道ニ關スル監督法規トシテハ從來輕便鐵道令(明治四十五年制)ヲ準用セラレ、大正九年ニ至リ同令ハ朝鮮私設鐵道令ノ制定ニ依リ之ヲ廢止セラレタルモ、公衆ノ用ニ供スル爲公道路上ニ敷設スル軌道ニ付テハ仍ホ從前ノ例ニ依ル「ト」ノ規定ニ依リ現在尙朝鮮輕便鐵道令同施行規則及其ノ附屬命令タル「輕便鐵道及軌道ノ建設、運輸其他業務ニ關スル件」(明治四十五年)ヲ適用ス

右ノ如ク軌道法規ヲ暫定的ニ爲シアルハ內地ニ於テ施行シツツアル軌道法及其ノ附屬令ニ準據シ適當ノ規定ヲ制定セムトスルモノニシテ目下之ガ調査中ナリ

軌道一覽

次ニ昭和十三年十二月一日現在ニ於ケル軌道ノ開業未開業並ニ建設費等左ノ如シ
(昭和十三年十二月一日現在、建設費ハ最近ノ決算ヲ計上ス)

軌道一覽表

經營者及主タル事務所在地	開		業				未開業線		
	區	間	程	軌	動	免	開	區	間
京畿道	京畿道	京畿道	程	間	力	許	業	間	程
京城電氣株式會社(京城)	京畿道	京畿道	三、九	一、〇六七	電氣	明治三、二一	米國人經營時代	五、五三三	
南鮮合同電氣株式會社(釜山)	慶尙南道	釜山府內	三、二	一、〇六七	同	同	大正四、二一	(私鐵ノ部ニ掲記ス)	
西鮮合同電氣株式會社(平壤)	平安南道	驛前、箕林里、大同江支線、船橋里寺洞間	三、八	一、〇六七	同	大正二、七三	同	一、九元	
咸平軌道株式會社(咸平)	全羅南道	咸平邑內間	六、二	一、〇六七	輕油	同	昭和二、一三	100	
京城軌道株式會社(京城)	京畿道	廣上、壯後、間原	六、〇	一、〇六七	同	同	同	五、六	
計			八、三	一				八、三六	

二線路延長

昭和十三年十二月一日現在ニ於ケル軌道ハ電氣軌道三、其ノ杆數六〇杆八分、輕油軌道一、其ノ杆數六杆一分、輕油電氣併用一社一四杆四分ニシテ合計八一杆三分ナリ

軌道 秆數

今昭和五年度ヨリノ軌道秆數ヲ表示スレバ左ノ如シ
軌道累年秆數表

年 度	開 業 線	未 開 業 線	合 計
昭 和 五 年 度	一三四・三分	一四二・七分	二七七・〇分
六 年 度	七一・二分	八一	七九・三
七 年 度	七五・二分		七五・二
八 年 度	七四・二分		八三・六
九 年 度	七四・二分	九・四	八三・六
十 年 度	八二・三分		八二・三
十 一 年 度	八三・一		八三・一
十 二 年 度	八三・二		八三・二
十 三 年 十 二 月 一 日	八一・三		八一・三

次ニ現在軌道ノ開業線秆數ヲ動力及軌間ノ種類別ニ示セバ左ノ如シ
動力及軌間別秆數表

種 別	動 力		軌 間	計 別
	電 氣	輕 油		
經 營 者 數	六〇・八分 三	六・一分 一	一・〇六七米 八・三分 五	八一・三分 五

三 事 業 概 況

朝鮮ニ於ケル軌道ノ内電氣軌道ハ都市ノ發達ト共ニ漸次事業ノ進展ヲ遂ゲ、之ガ營業成績ハ逐年良好ニ向ヒ、三電氣軌道共其ノ建設費ニ對スル利廻一割一分乃至一割六分ニ上ル 手押軌道ハ、鮮内各地道路ノ修築比較的發達シ自動車營業ノ行ハルル箇所尠カラズ且牛馬車賃概シテ低廉ナルヲ以テ廢止又ハ休止ノ状態ナリ 今各軌道事業ノ概況ヲ略述スレバ左ノ如シ

京城電氣軌道

京城電氣株式會社ノ經營ニ係リ開業線ハ複線三五秆一分、單線八分、合計三五秆九分ニシテ、京城市内一圓及市外清凉里、麻浦竝ニ往十里ニ至ル軌間一〇六七米、軌條ハ大部分三〇疋ヲ使用シ一部ニ三七疋又ハ五七疋ヲ使用ス電氣方式ハ單線架空式ニシテ電力ハ自社發電所及金剛山電氣ヨリ供給ヲ受ク、客車輛數一七九輛(外ニ貨車四輛、撒水車四輛アリ)ヲ有シ、乘車賃ハ府内五錢均一、麻浦清凉里往十里ノ郊外線ハ各五錢、府内ト郊外線相互乘繼ハ各八錢、郊外線ヨリ府内線ヲ經由シ郊外線乘繼ハ十一錢トス 次デ昭和八年四月一日京城府營乘合自動車業務ノ一切ヲ讓受ケ營業ヲ開始セリ、車輛九八輛(三七人乃至一八八人乗)ヲ有シ、八路線中二路線ヲ除キ府内電車線ノ延長線ト看做シ相互間無料乘繼ヲ認メ五錢均一ノ運賃ヲ以テ乗客ノ利便ヲ圖リツツアリ

釜山電氣軌道

南鮮合同電氣株式會社ノ經營ニ係リ複線八秆二分、單線三秆九分、計一二秆一分及私設鐵道ノ取扱ヲ受クル釜山鎮、東萊間九秆五分ヲ併セ營業ス

軌條ハ府内線及東萊線共三〇疋ヲ使用シ軌間ハ一〇六七米ニシテ、電氣方式ハ單線架空式、電力ハ自社發電所ヨリ供給ス

車輛ハ四五輛(外ニ貨車一輛、撒水車一輛)ヲ有シ、乘車賃ハ府内線ヲ三區、東萊線ヲ三區ニ分チ一區各五錢トス

次デ昭和九年十二月十三日釜山東萊間乗合自動車、更ニ昭和十年八月十四日府内乗合自動車營業ノ免許ヲ受ケ區間ヲ分チ電車ト無料乘繼ノ利便ヲ圖リツツアリ

平壤電氣軌道

西鮮合同電氣株式會社(舊平壤府營)ノ經營ニ係リ複線六料、單線六料八分ニシテ軌間ハ一〇六七米ナリ、軌條ハ全線三〇疋ヲ使用シ、電氣方式ハ單線架空式ニシテ電力ハ朝鮮電氣興業會社ヨリ供給ヲ受ケ

車輛ハ四〇人乘電車三六輛、貨車二輛、撒水車一輛ヲ有シ、乘車賃ハ府内ヲ五錢均一トシ、大同江對岸ニ至ル船橋里及寺洞線ヲ二區ニ分チ、一區各五錢トス、次デ昭和九年三月七日府内乗合自動車營業ノ免許ヲ受ケ電車トノ乘繼ハ一回ヲ限り無料乘換券ヲ發行シ利便ヲ圖リツツアリ

咸平輕油軌道

昭和二年一月運輸營業ヲ開始セル輕油軌道ニシテ開業區間六料一分、軌間一〇六七米、軌條ハ大體一〇疋ヲ使用シ、小數ノ一二疋及一五疋ヲ混用ス、車輛ハ瓦斯倫機關車二輛、輕油動車二輛(内一輛ハ一疋積輕油貨車)ノ外二四人乘客車三輛(二疋積手荷物車二輛)ト七疋積貨車四輛ヲ有シ、乘車賃ハ全線ヲ通ジ二〇錢、貨物ハ十級品小口扱百疋ニ付十錢、貳及車扱一疋ニ付一圓ナリ。外ニ奧地トノ乗合自動車及貨物自動車營業ヲ爲ス

京城軌道

當初京城郊外軌道トシテ往十里壽島間ノ免許ヲ受ケ昭和五年十一月運輸營業ヲ開始セル軌間一〇六七米ノ輕油軌道ナリシガ、其後京城軌道會社ガ之ヲ讓受ケ、尙往十里東大門間及上後原華陽間並ニ華陽廣壯間ノ建設ヲ了シ現在一四料四分ヲ營業ス、昭和十年六月二十日動力ニ電氣ヲ追加シ今日ニ及ベリ、軌條ハ大體二二疋ヲ使用シ小數ノ二一疋ヲ混用ス、車輛ハ瓦斯倫機關車九輛、電車四輛、客車二輛、輕油動車一二輛、貨車一〇七輛ヲ有シ賃金ハ區間別ニシテ五錢乃至一五錢トス

四 營業成績

軌道ノ昭和十二年度ニ於ケル營業成績ハ旅客人員一〇六七八六千餘人、貨物應數二七五千應ニシテ收入五、二四三千圓、營業費四、〇九四千圓、差引益金一、一四九千圓ニ上リ、營業收入ニ對スル支出ノ割合ハ七割八分ニ當レリ

各軌道ノ最近五箇年間運輸成績左表ノ如シ

運輸成績累年表

軌道名	年 度	營業年度末	旅客人員	貨物應數	收 入	支 出	益 金	平均一日收入
京城電氣軌道	昭和八年度	四、五、五分	四、六、七、七、九、八、人	一、八、一、五、四、四、	二、一、七、一、九、九、六、	一、七、九、五、八、六、	三、三、三、四、一、〇、〇、	一、七、一、三、三、
	同 九年度	四、七、	五、九、三、七、〇、	一、〇、〇、〇、	二、六、五、三、六、五、	二、一、〇、〇、〇、	三、三、三、四、一、〇、〇、	三、〇、八、二、
	同 十年度	四、七、	六、七、八、〇、六、	六、七、五、	三、一、七、九、九、七、	二、四、七、三、二、八、	三、〇、七、七、〇、	三、五、一、九、
	同 十一年度	四、七、	七、七、七、四、〇、	九、四、〇、	三、五、五、三、八、七、	二、九、〇、〇、七、	三、〇、一、一、〇、〇、	三、五、一、二、
	同 十二年度	四、七、	八、六、六、六、〇、	〇、七、	四、〇、一、一、六、〇、	三、三、三、六、一、五、	三、四、五、九、三、	三、五、八、五、

軌道名	年 度	營業度末	旅客人員	貨物噸數	收 入	支 出	益 金	平均日收入
南 鮮 合 同 電 氣 會 社 (釜 山)	昭 和 八 年 度	三〇・三	六六七、四八三	一	五九、四四五	三三、七三	六、七二	五、九六
	同 九 年 度	三三・六	七四五、九三二	一	四四、七七八	二五、〇〇九	一九、七六九	五、四三三
	同 十 年 度	三三・六	八、四八二、六六九	一	五〇、一七七	三六、二六	一三、六八九	六三、二一
	同 十 一 年 度	二二・六	九、〇四、〇三三	一	五八、七六四	三九、六三六	一八、一三	七三、三六
	同 十 二 年 度	二二・六	一一、六一、〇八七	一	六三、〇〇九	三七、五八八	二六、四三一	八三、七六
西 鮮 合 同 電 氣 會 社 (舊 平 壤 府 營 電 氣 軌 道)	昭 和 八 年 度	二二・九	五、六二、八三五	一、九六〇	三三、四五一	一四、七九六	九、六五五	四、二〇
	同 九 年 度	二二・九	六、三九、〇七六	三、三三三	三三、五七六	二四、四八九	二九、〇八七	五、九七六
	同 十 年 度	一三・〇	七、四七、六六七	二	三四、五三二	三五、一八〇	五、三四一	七、二五七
	同 十 一 年 度	一三・〇	八、五二、三五七	一、九〇五	三九、八二四	三五、三四二	三、七三二	七、九八三
	同 十 二 年 度	二二・八	六、九七、〇五九	一、二二五	三九、七九五	三四、五九九	九、四四六	八、九四三
威 平 軌 道	昭 和 八 年 度	六・一	三三、三三〇	一四〇	七、六六六	九、〇〇〇	一、三三四	三、四五
	同 九 年 度	六・一	二八、九九五	一三	七、四四一	一一、四四五	四、一〇	三、三四
	同 十 年 度	六・一	二六、一〇一	一四	八、七〇一	一、七〇一	三、〇〇〇	三、七四
	同 十 一 年 度	六・一	四〇、一四九	二九	九、七六一	一三、〇五六	三、九一一	四、〇六
	同 十 二 年 度	六・一	四三、七四七	六六	九、九一九	一四、三〇三	四、三四	四、四六
倭 館 軌 道	昭 和 八 年 度	一・一	一	一、五七〇	三三	一三	一、九	一、八
	同 九 年 度	一・一	一	一、〇〇	二七	一一	一、六	一、七
	同 十 年 度	一・一	一	〇	二二	〇	二、六	一、四
	同 十 一 年 度	九・二	五〇、三五六	三〇八、八三七	六、七、五二	五八、七元	八、六三三	二、〇六
	同 十 二 年 度	一三・三	一七、一〇一	二二、七四四	八、六、七九	七、七三三	一〇、一五	二、四八

合 計	京 城 軌 道 株 式 會 社
同 十 年 度	一四・四
同 十 一 年 度	一四・四
同 十 二 年 度	一四・四
同 八 年 度	〇
同 九 年 度	〇
同 十 年 度	〇
同 十 一 年 度	〇
同 十 二 年 度	〇

備考 南鮮合同電気株式会社ノ計數ニハ私設鐵道ノ取扱ヲ受タル釜山嶺東葉間九軒五分ヲ含ム

第二章 陸運(自動車運送)

一、法 規

昭和七年七月三十日勅令第二〇二號ヲ以テ鐵道局官制中私設鐵道ノ監督ヲ私設鐵道軌道其ノ他陸運ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ルニ改メラレ從來ノ鐵道軌道ノ外自動車運送索道運送其ノ他ノ陸上運送事業ノ監督事務ヲ併セ處理スルコトナリ同時ニ朝鮮總督府訓令第五十三號ヲ以テ從來各道ニ於テ處理シ來レル自動車運送營業ノ許可其ノ他ノ處分ノ中重要ナルモノニ付テハ朝鮮總督ニ稟伺ノ上之ヲ處理スルコトトシ自動車運送事業自體ノ統制ヲ圖ルト共ニ等シク陸上運輸機關タル鐵道軌道ト自動車運送トノ協調連絡竝ニ統制ヲ圖ルコトトセリ

而シテ之等各事業ノ統制ヲ本格的ニ行フニハ先ヅ準據法令ノ整備ヲ急務ト認メ昭和八年九月自動車交通事業法ヲ内容トスル朝鮮自動車交通事業令ヲ同九年十二月同令施行規則以下各種ノ附屬法規ヲ公布シ十年四月一日ヨリ孰レモ施行セリ其概要次ノ如シ

一、昭和十年四月一日 總督府令第二百二十一號ニ依リ昭和八年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令施行サル

要旨 本令ハ朝鮮ニ於ケル自動車ニ依ル交通事業ノ統制竝ニ助長ヲ期スル爲ニ制定セラレタルモノナリ

一、同 日 總督府令第二百二十二號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令施行規則施行サル

要旨 本規則ハ朝鮮自動車交通事業令施行ニ必要ナル一般的手續ヲ規定ス

一、同 日 總督府令第二百二十三號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車交通事業令職權

委任規定施行サル

要旨 事業令ニ規定スル朝鮮總督ノ權限ノ一部ヲ鐵道局長及道知事ニ分任ス

一、同 日 總督府令第二百二十四號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業規程施行サル

要旨 路線ノ幅員ニ應ジテ自動車ニ一定ノ旅客座席定員ヲ有セシメ又事業ノ狀態ニ應ジ自動車ノ使用車輛數ヲ定ム

一、同 日 總督府令第二百五號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業會計規程施行サル

要旨 運輸上ノ諸收入ノ範圍、興業及營業ニ關聯スル費用ノ分割、他業ヲ併營スル場合ニ於ケル興業費、營業費、營業收入ノ分割方法及車輛價格ノ消却等ニ關シ規定ス

一、同 日 總督府令第二百二十六號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸規程施行サル

要旨 鐵道營業法ノ鐵道運輸規程ニ該當スルモノナリ

運賃料、運送條件ノ公告、自動車従事員ノ制服着用、營業所停留所ニ公示スベキ事項、車輛ノ検査、旅客ノ乗車ヲ拒絶シ得ル場合、旅客ノ遵守事項、車内持込荷物ノ制限物品運送ノ義務等自動車ニ依ル運輸營業上ノ事項ヲ規定ス

一、同 日 總督府令第二百二十七號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮旅客自動車設備規程施行サル

要旨 自動車運輸事業用自動車ノ構造設備ニ關スル規定ニシテ車輛ハ低床式構造ノモノヲ使用スルコト

車輛ノ高サ、旅客座席定員ノ幅員、立席ヲ設ケ得ル場合等ヲ規定ス

一、同 日 總督府令第二百二十八號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運輸事業自動車登録規程施行サル

要旨 自動車運輸事業中株式會社ノ經營スルモノニ在リテハ一車毎ニ一定様式ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ要ス、登録事務ハ道知事ニ於テ管掌ス

一、同 日 總督府令第二百二十九號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車構造規程施行サル

要旨 自動車道ヲ一般自動車道、専用自動車道ノ二種ニ區別シ各其ノ構造ニ關スル規定ニシテ、自動車道ノ幅員、路面、勾配、曲線半徑、路面ノ鋪裝、警戒標信號機、照明裝置、及他ノ交通施設トノ平面交叉方法等ニ關シ規定ス

一、同 日 總督府令第三百三十號ヲ以テ昭和九年制定セラレタル朝鮮自動車運送事業規則施行サル

要旨 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル準據規定ニシテ、運送事業ハ一般的ニハ道知事ニ於テ免許其ノ他ノ處分ヲナシ一定ノ路線ニ依ル自動車運送事業ハ鐵道局長ニ於テ免許其ノ他ノ處分ヲナスベキモノトス

一、昭和十年四月十八日 總督府訓令第十五號ヲ以テ朝鮮自動車交通事業令取扱手續ヲ定メ昭和七年總督府訓令第五十三號ハ之ヲ廢止ス

要旨 自動車交通事業令施行規則ニ依リ道知事ノ作成スベキ調査書ノ記載事項、總督ニ稟伺シ又ハ其ノ指揮ヲ受クベキ事項、鐵道局長ニ報告スベキ事項等ヲ規定ス

次ニ朝鮮ニ於ケル自動車交通事業ハ、輓近急速ナル發達ヲ遂ゲ其ノ自動車運輸事業ニ在リテハ十三年一月一日現在旅客運輸事業者百五十九、路線延長二萬六千二百三十五軒四分、物品自動車運輸事業二十九、路線延長五千四十五軒五分ニシテ合計百八十八業者、三萬一千二百八十軒九分ナリ、又自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ在リテハ一定路線ニ據ルモノハ不定期遊覽乗合自動車運送事業者八、路線延長百二軒七分、不定期貨物自動車運送事業者百七十七、路線延長二萬七千四百軒三分ナリ、一定路線ニ據ラザル自動車運送事業者ハ旅客貨切自動車運送事業者二百六十、貨切貨物自動車事業者四百四十二ヲ示シ其ノ内譯及各道ニ於ケル自動車交通事業ノ狀況左ノ如シ

自動車運輸事業

(昭和十三年一月一日現在)

道名	旅客自動車運輸事業		物品自動車運輸事業	
	事業者	路線軒程	事業者	路線軒程
京畿道	二五	二、六〇四・一	一五	六四六・三
忠清北道	一〇	一、三三四・二	一	二三八・九
忠清南道	一一	一、五二二・九	一	一九一・三
全羅北道	二〇	一、七〇二・九	一	二六・一
全羅南道	六	二、四七七・六	一	六二七・〇
慶尙北道	一八	二、三六二・〇	一	三五〇・六
慶尙南道	二	二、五二二・二	一	七七七
黃海道	二	二、一三〇・八	一	一、八六六・一
平安南道	二六	二、〇九二・六	一	九〇〇・三
平安北道	七	二、八一九・八	一	一一・五
江原道	二	二、五七八・六	一	一、二一五
咸鏡南道	八	一、三七二・七	一	五、〇四五・五
咸鏡北道	八	六一〇・〇	一	
合計	一五九	二六、二三五・四	二九	

自動車運送事業 (定路線)

(昭和十三年一月一日現在)

道名	不定期貨物自動車		不定期遊覽乘合自動車	
	事業者	路線里程	事業者	路線里程
京畿道	一三	九八〇.一	一	二二〇
忠清道	八	一一四.九		
全羅道	一七	七八六.六		
全羅道	二四	一九三七.〇		
慶尚道	一八	三、〇六七.九		
慶尚道	一四	一、五〇二.一		
黃海道	一九	一、五六三.九		
平安道	一〇	一、四五六.六		
平安道	九	二、六六六.五		
江原道	七	一、二八五.四		
咸鏡道	七	二、二六〇.八		
咸鏡道	一三	一、二八五.四		
合計	一七七	二〇、〇七四.三	八	一〇一七

自動車運送事業 (貸切)

(昭和十三年一月一日現在)

道名	貸切旅客事業者		貸切貨物事業者	
	事業者	道名	事業者	道名
京畿道	八一	忠清道	五〇	忠清道
忠清道	四	全羅道	九	全羅道
		合計	二六〇	合計

自動車交通事業營業許可路線延長杆及事業者累年表

年別	種別	路線延長杆	乘合	貨物	乘用	貨物
昭和七年一月一日	貨物	二八、〇五七.一	二七七	二五〇	二六二	七八
同 八年一月一日	貨物	二六、四三七.六	二六二	二四二	二六一	一八八
同 九年一月一日	貨物	二八、二七三.四	二四六	二三八	二五二	二四四
同 十年一月一日	貨物	二六、四三九.一	二三三	二三四	二六〇	二三四

運輸事業

年 別	旅客自動車運輸事業		物品自動車運輸事業	
	事業者	路線延長	事業者	路線延長
昭和十一年一月一日	二一七 _人		三八 _人	五、〇〇〇 _斤
同 十二年一月一日	一九三		三三	五、〇四〇 _斤
同 十三年一月一日	一五九		二九	五、〇四五 _斤

運 送 事 業

年 別	不定期遊覽		不定期貨物		貸切旅客	貸切貨物
	事業者	路線延長	事業者	路線延長		
昭和十一年一月一日	五 _人	四八 _斤	二〇三 _人	二〇、三九八 _斤	二六四 _人	五〇一 _人
同 十二年一月一日	八	一一 _斤	一七七	二二、一八〇 _斤	二四九	四三四
同 十三年一月一日	八	一〇 _斤	一七七	二〇、〇七四 _斤	二六〇	四四二

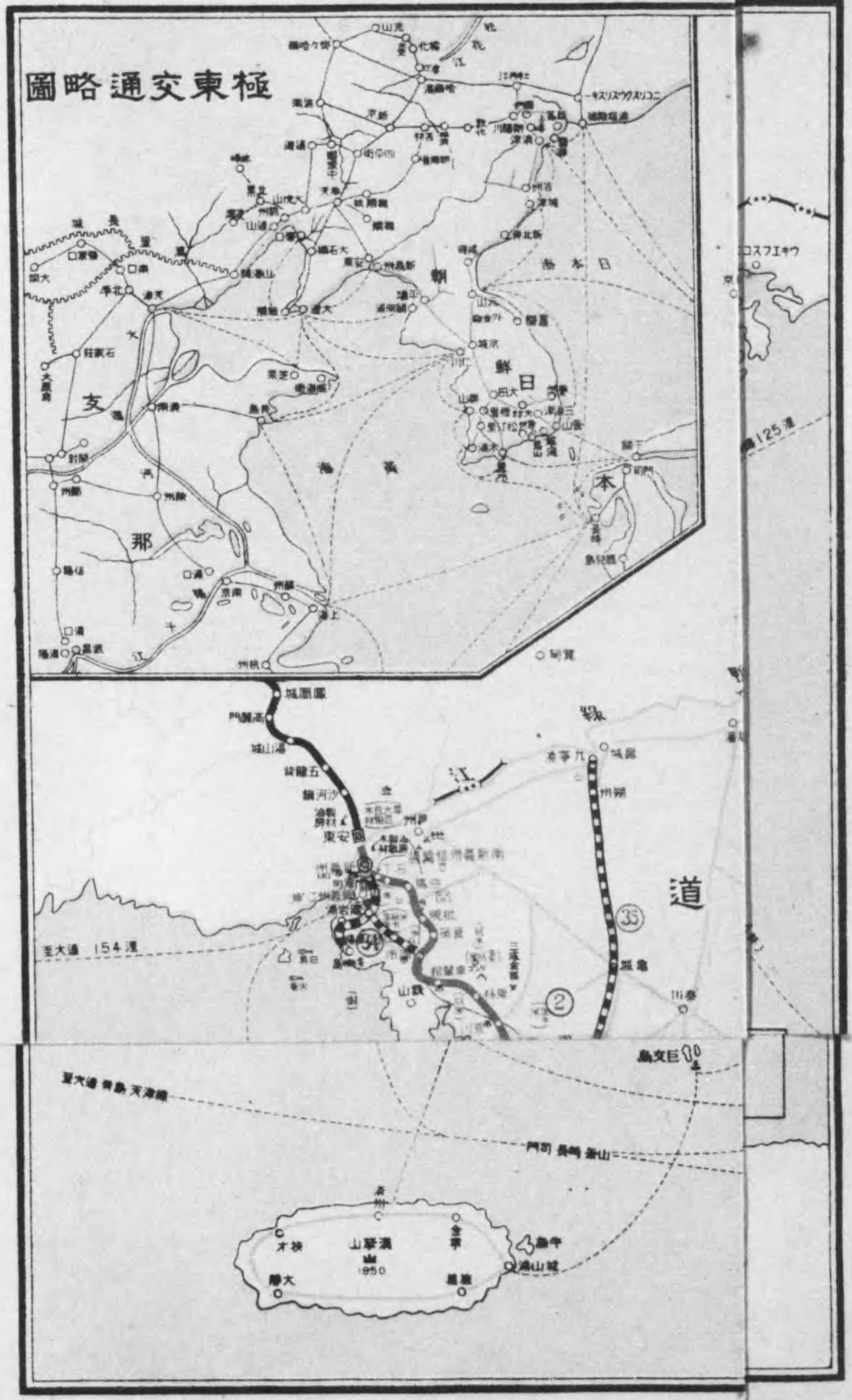
昭和十三年十二月十五日印刷
 昭和十三年十二月二十日發行

朝鮮總督府鐵道局

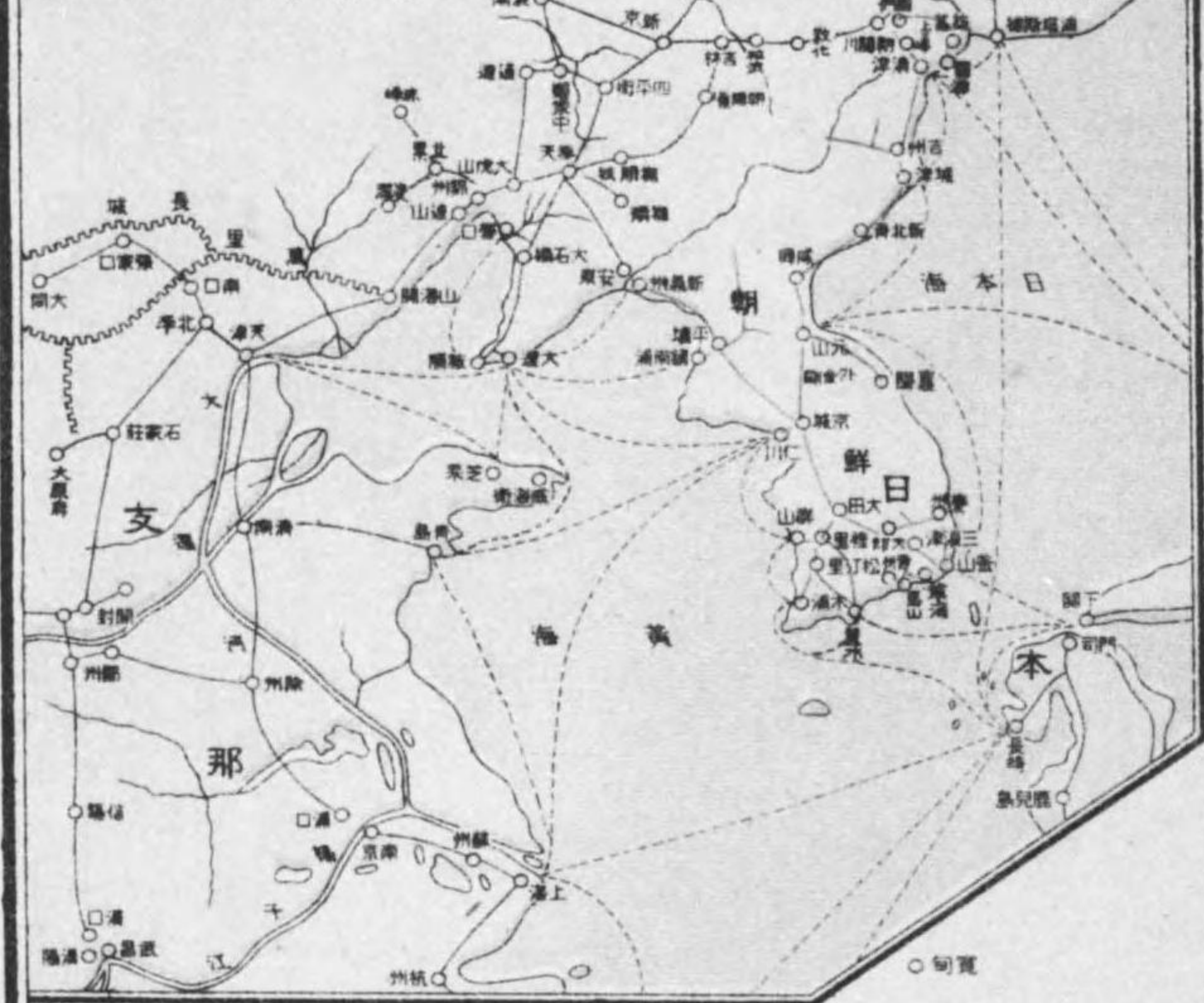
京城府蓬萊町三丁目六二・三番地

印刷所 朝鮮印刷株式會社

池N-96

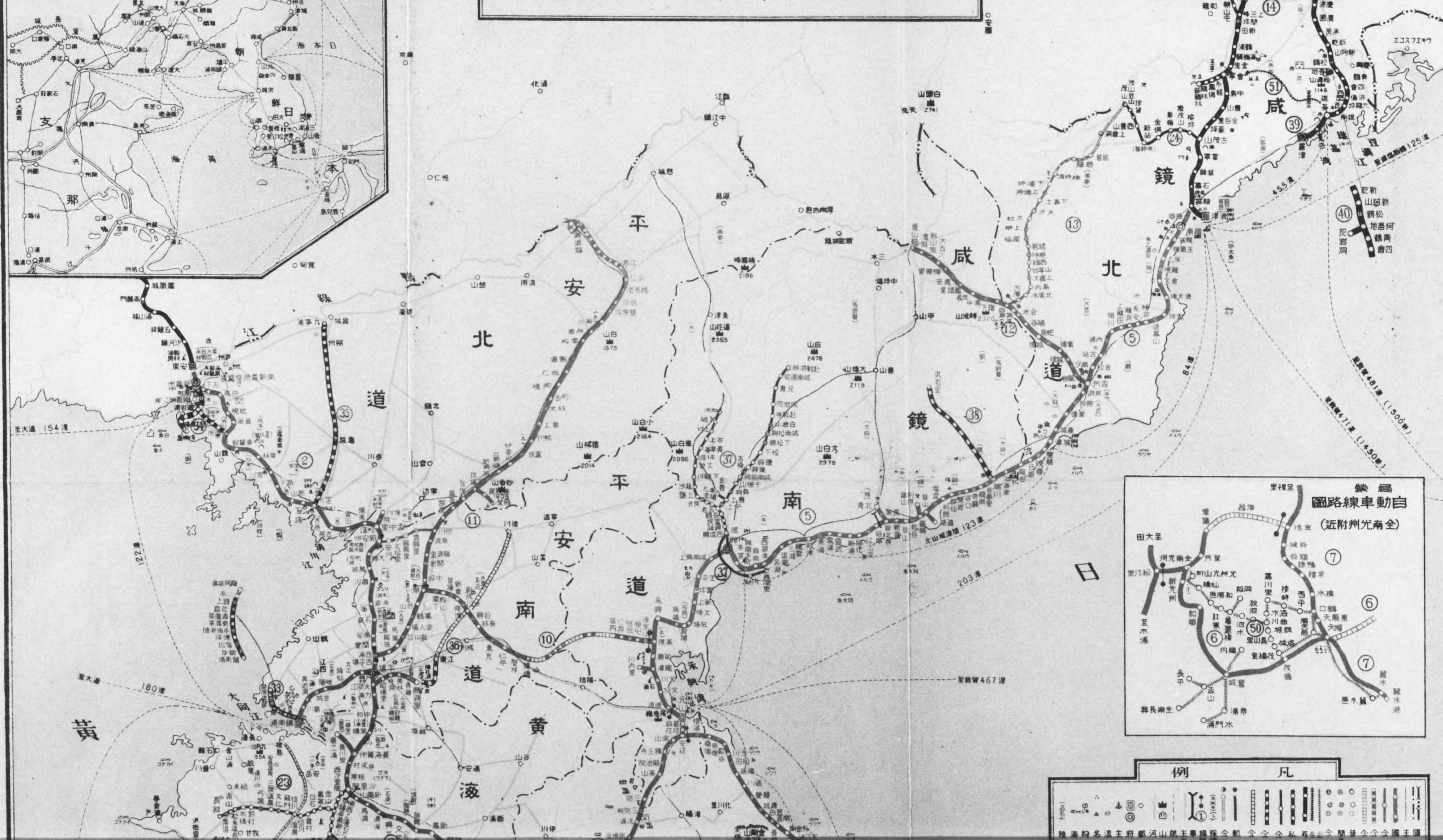


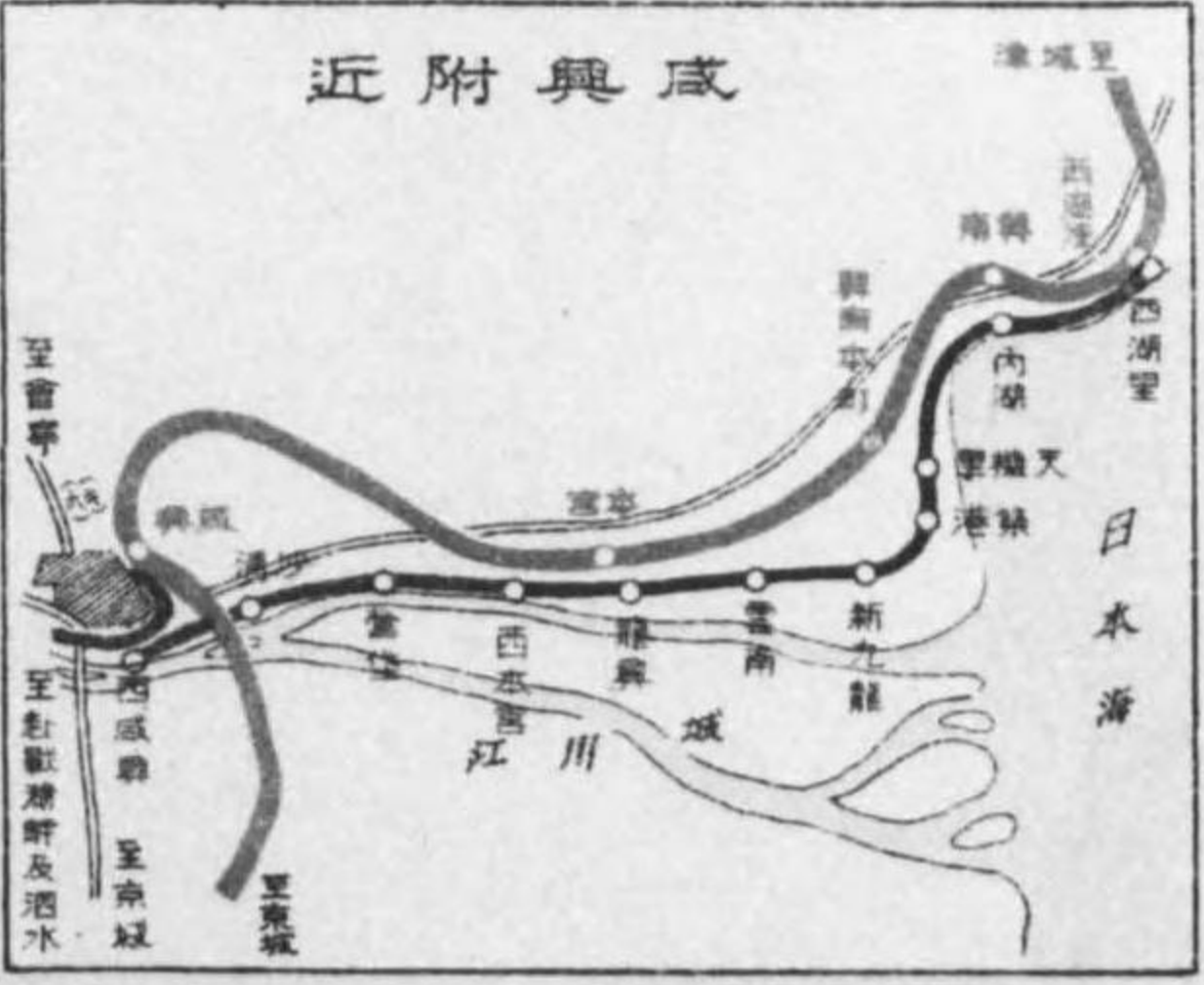
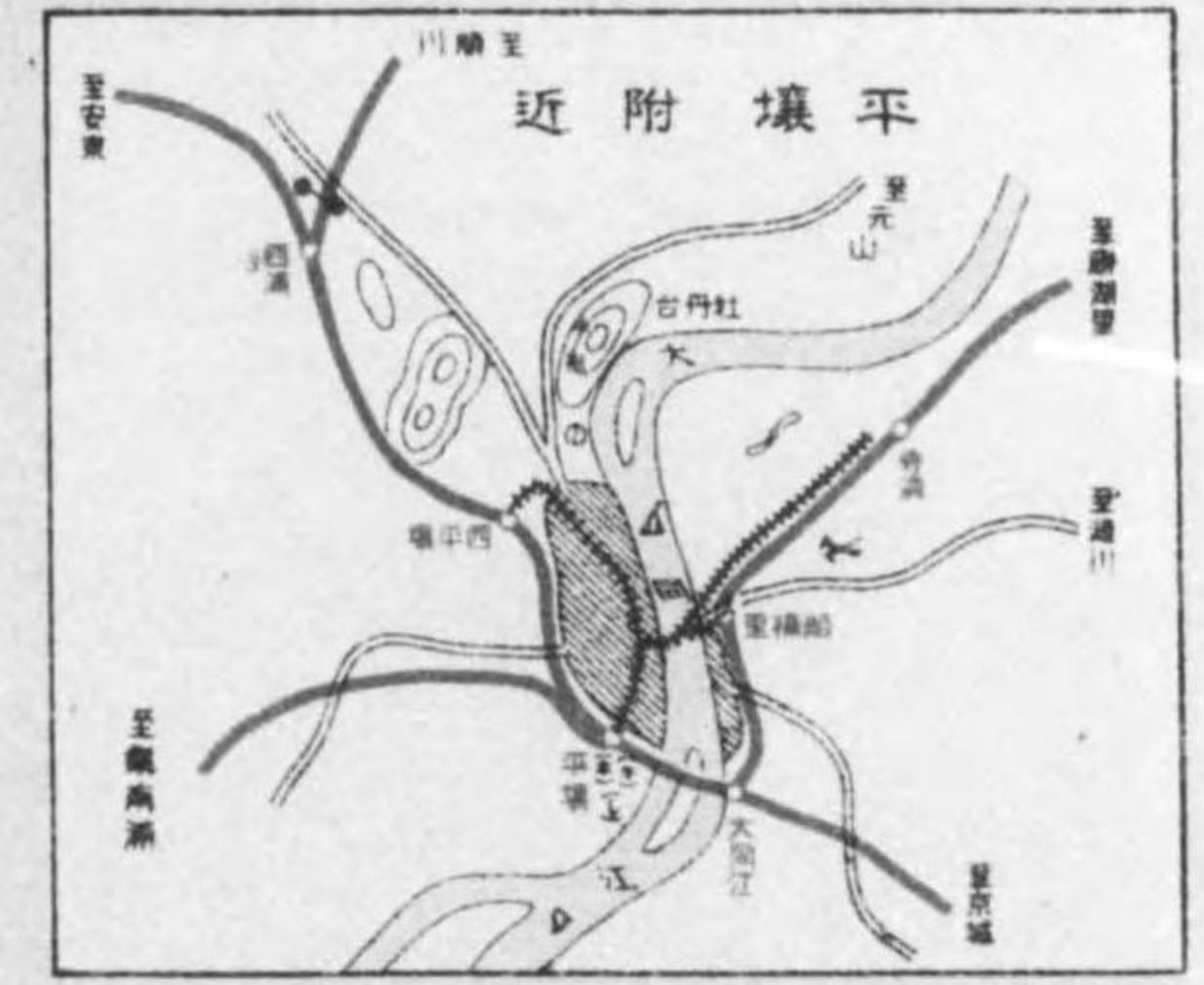
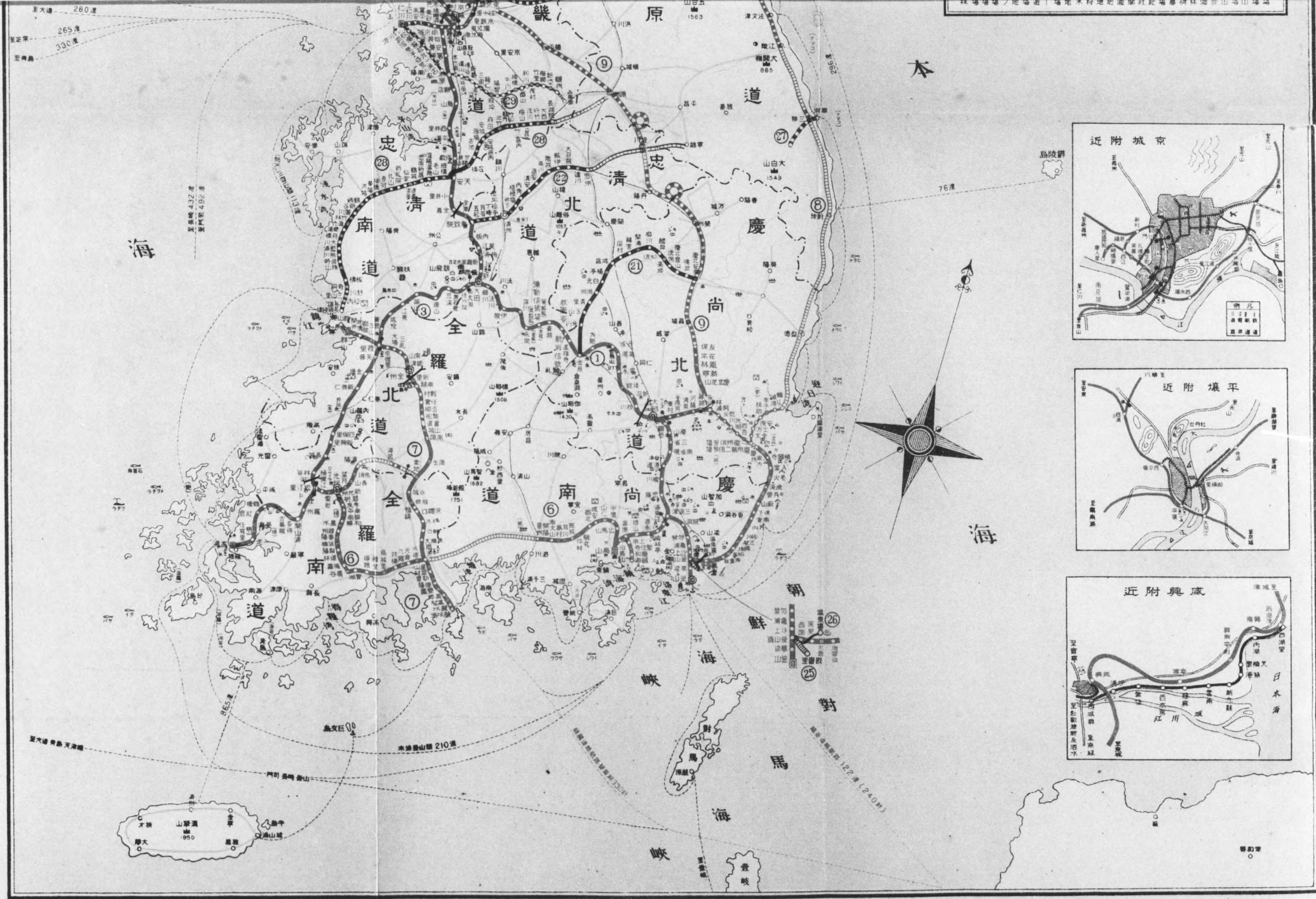
圖略通交東極



朝鮮鐵道略圖

在現日一十三月二十年三十和昭





至大連 280度

至定平 265度
至青島 330度

至東京 432度
至門司 492度

至大連 青島 天津線

門司長崎 釜山

水滸雲山 210度

山加 1220度 (240度)

峽

海

峽

海

對

海

朝

海

鮮

海

慶

海

尚

海

北

海

清

海

忠

海

道

海

原

海

畿

海

本

海

道

海

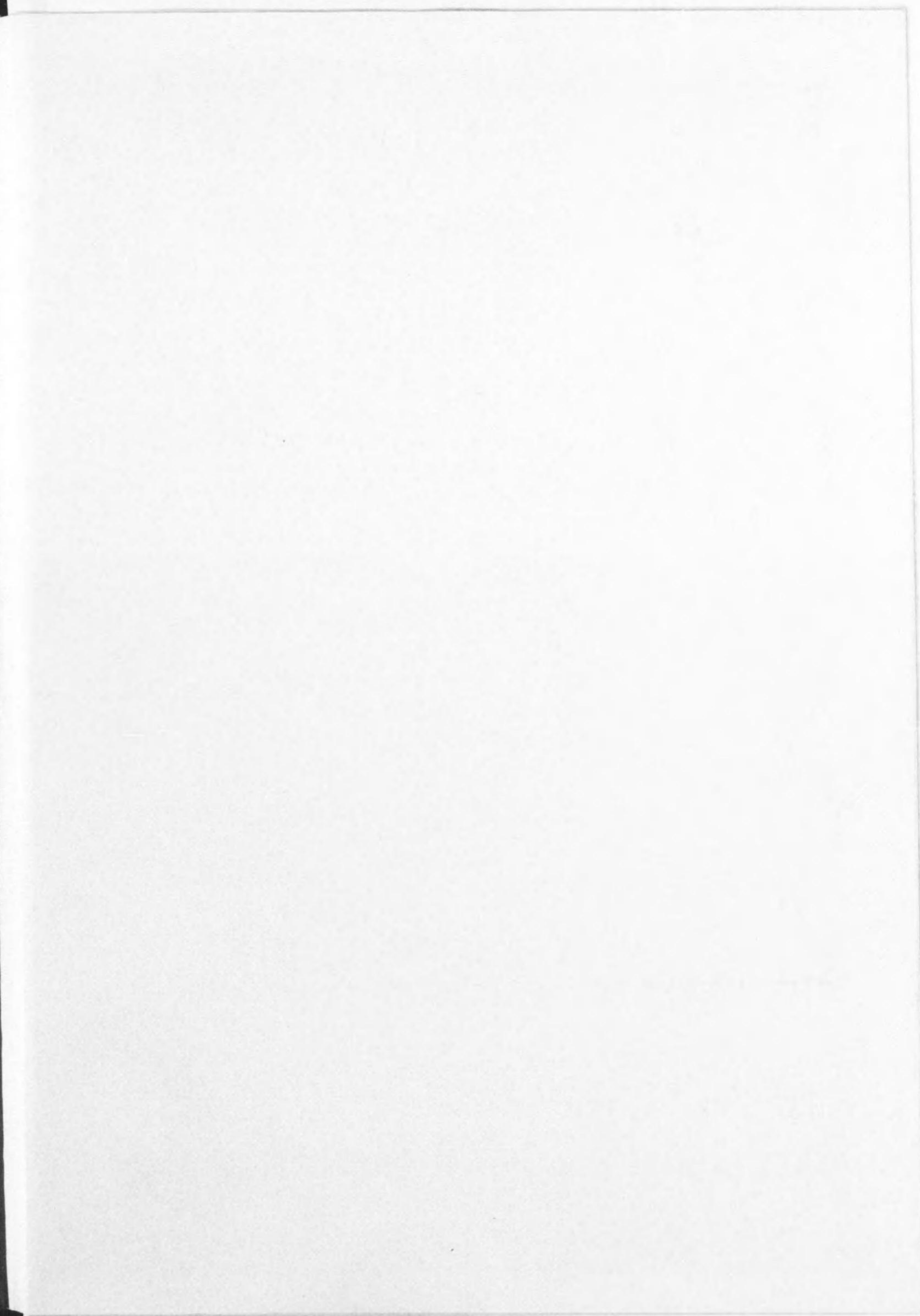
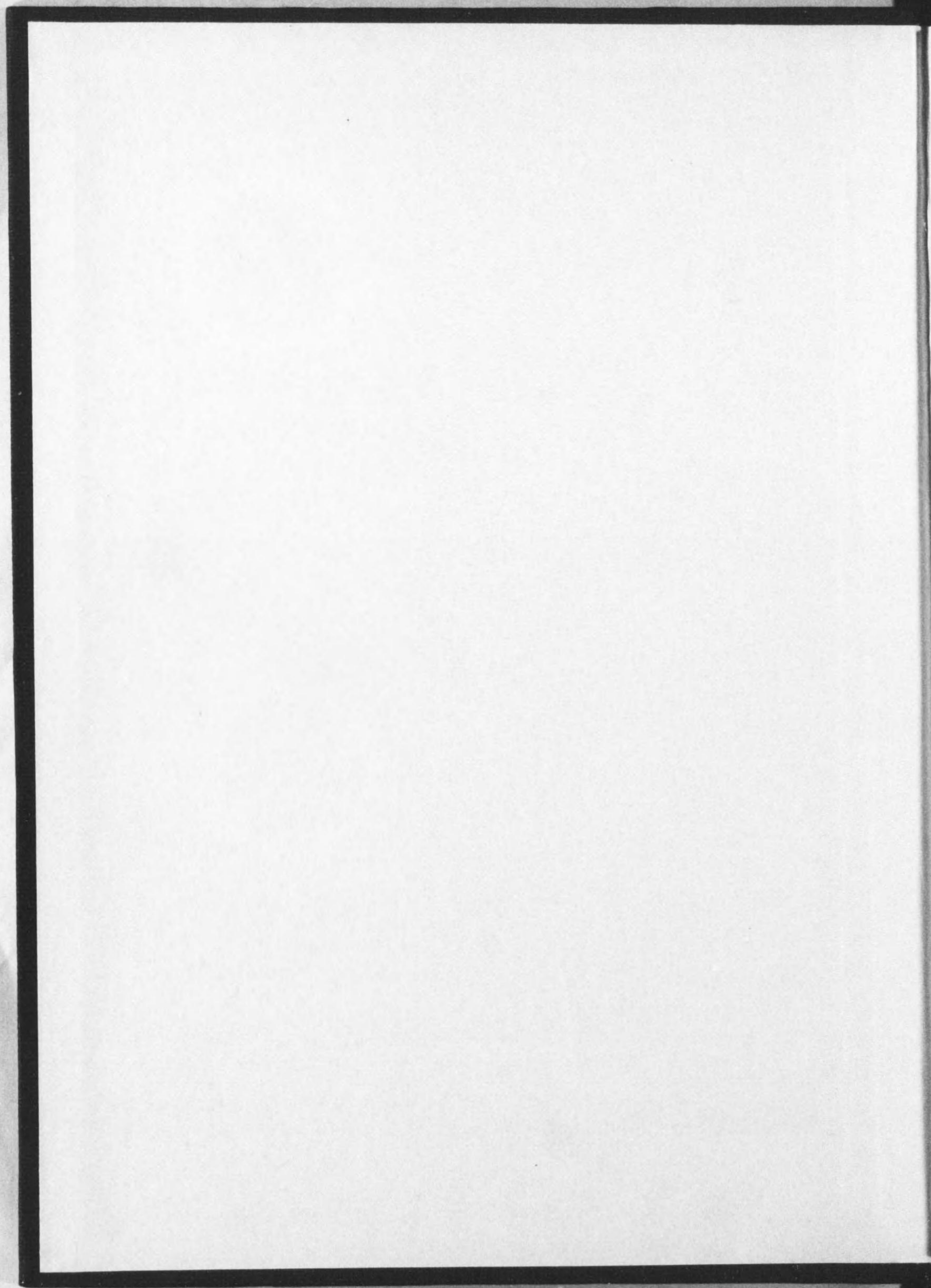
道

海

道

ZEN-96

ZEN-96



終